

段階	学習内容と活動	時間	教 授 と 分 担		形態	反応と評価	準 備
			T c	T d			
反省	7. まとめと話し合い 8. 楽器のあとしまつをする	5	7. 本時のまとめと次時の予告をする リズム伴奏のくふうでむつかしかったところはどこでしたか 今日の合奏で楽しかったところは、どこですか 次の時間は新しい曲空と海を勉強します	• 学習の成果をたしかめる ◦ よくできなかつたところはどこかメモする ◦ 楽しく合奏ができたか、メモする • 楽器の整理 援助	大	よくできなかつたところ ◦ リズムの組み合わせ 楽しくできたか 器	

(6) 考 察

① 題材の取り扱い

- ア 2学年合併集団による授業の第1年次として、器楽領域をとりあげたことは、器楽の導入、場面の構成で従来にない満足感がもたれた。
- イ 複数の教師で検討し、題材構成の協力作成により、内容、方法が具体的になり、教育機器の活用も効率的に位置づけられた。

② 基調案

- ア 基調案の作成により、教材研究が充実し、内容も深まり、効率的であった。
- イ 教師の特性が生かされ、役割・分担に主体性もたれた。

③ 指導計画細案

- ア 年間指導計画の作成は、主として器楽領域をとりあげ、総合的な器楽合奏の題材について合併授業を組むよう選択した。
- イ 1時間ごとの指導計画細案は、合併授業を進めるうえに、効果的であった。

④ 教授過程

- ア 合併授業により（学年のわくをはずし集

団の再編成を行なう）器楽合奏を実施した結果は、器楽合奏の楽しさ、音の美しさをじゅうぶん味わせることができた。

- イ 協力分担による授業の結果は、各パートの指導が、効率的で、ねらいが的確には握された。
- ウ 教師相互の話し合いが具体的でないためか、相互に消極さがみられた。
- エ 役割・分担に主体性が足りなかった。

⑤ 教師の役割・分担

- ア 教育機器の活用はじゅうぶんであり、観察面も授業と平行して行なわれ、個別化は徹底された。
- イ 「教授と分担」のらんの内容は、なるべく具体的にし、話し合いをじゅうぶんする必要がある。
- ウ 教材研究が高まり、内容の深化がみられた。
- エ 学習カードを利用した結果は各パートごとの演奏技能の高まりをみることができ、教授過程を吟味することができた。

⑥ 児童の反応

- 合併授業について、児童に次のような反応が